

## 「れいわ新選組の山本太郎代表」

2019年09月25日

れいわ新選組の山本太郎代表は参議院選挙で国民の関心を集め、重度の障がいを持つ船後靖彦氏と木村英子氏を当選させた。お陰で、国会はバリアフリー化を進めた。障がい者に人々の関心を集めたことが何よりの貢献であったと思う。彼自身は高得票を得ながらも落選した。「自分が議員であるかないかは関係ない。世の中が変わっていけばいい」と言っていることに敬服する。私は「れいわ新選組」というネーミングに抵抗を覚えた。「れいわ」は天皇の元号から取ったと思われるが、天皇制に支配されることに疑問を持つ。彼は以前、天皇に直訴しようとしたことがあった。天皇の言葉によって社会を動かすことを求めることは、国民が主権を持つ憲法理念とは真逆で、政治家としての資質を疑う。「新選組」も、自民党を補完する「維新の会」に反抗したのかも知れないが、江戸幕府のために戦った暴力組織であった。彼は潔く散ることを求めているのであろうか。

山本氏は、新聞や雑誌で頻繁に取材され、政治理念を述べている。紹介し、私の意見も書いてみたい。まず、自殺者が2万人、未遂者が50万人もいる現実を踏まえ「死にたくなるような世の中から、生きていたいと思える世の中にしたい」と言っている。憲法24条の「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」が破綻しているということである。彼の貧しい人々への篤い思いは選挙演説で聞いていた。「生きたい世の中にする」という言葉に感銘を受けた。安倍政権は憲法改定に意欲を燃やしているが、山本氏は「現行憲法を守らず変えようとする人間たちは信用するな、怪しいと思え」と言っている。その感覚に賛成である。自民党が長期政権を維持するための第一の条件は米国追従の政策を取ることである。安倍政権は米国から膨大な兵器を買いつけ、必要のないトウモロコシも購入する。トランプ大統領の選挙支援以外の何ものでもない。そして、米国の手先になって、戦争も辞さない準備をしている。安倍首相とトランプ大統領が航空母艦「いずも」艦上で撮った写真が日本の軍国化に拍車をかける契機になるのではないかと危惧している。サウジアラビアの石油施設がドローンで攻撃された事件には震撼させられる。イーグリス・アショアを配備しても、迎撃できないことを証明した。また、台風15号で都市機能は麻痺し、生活は混乱し、破綻した。ミサイルで攻撃されたら一溜りもない。日本は戦争できない都市構造なのである。戦争を放棄し、話し合いで平和を構築するしかない。そのためには、過去の歴史を事実に基づいて認識し、隣国との友好を模索する。戦争放棄の日本国憲法はアジア諸国への謝罪を込めたものであることを思い返すべきである。

山本氏は、消費税の10%を止め、5%に引き戻せと言っている。消費税は低所得者に負担がかかるからである。そして、希望ある経済政策を打ち出すことを主張している。長期政権を維持するための第二の条件は経済成長である。中曽根、小泉、安倍政権は色々な批判とごまかしはあるが、経済的には国民から支持されてきたと言わざるを得ない。人は皆、経済成長を期待し、豊かな暮らしを求めるが、かつてのような成長は望めない。他から収奪する資本主義は終焉するところまで行き着いている。経済成長は地球の資源を消費し、温暖化を促進させるだけである。徒な成長ではなく、積み上げて来た豊かさをいかに分配して、貧富の格差をなくした「共生社会」を築いていくかに英知を注ぐべきではないか。山本氏は、安倍一強政治から政権交代を可能にする野党の結集を呼び掛けている。大賛成である。そのためには、野党が自分の政党の利害、成長だけを求める姿勢から、市民の声を謙虚に聞き、国民ファーストの視点に目覚めることが必須である。